

好感度天限突破スタートの才人

レモンちゃんprpr

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

サイト君の好感度がルイズに極振りされてスタートします。

色々と足りない部分がありますので感想欄でびしばし叩いてくれますと喜びます。

コントラクト・サーヴィアント

目

次

コントラクト・サーヴァント

友達との会話でバカらしいと思つてたことがある。君に一目惚れしちやつたんだよつていうこつぱずかしいことなんてないだろつて。一緒に仲良くして いるうちに好きになるとか何気ない行動に惚れたらなら分かるけどさつて皆で笑いあつてたつけ。

ごめん、もう俺一緒になつて笑えないや。一目惚れしちやつたんだもん。仕方ないじやん。光の窓だか変なのに入つたらこれまた変な人達一杯でこつぱげる人もいるし、なんか皆マントなんてつけて妙に偉そ うでてか空飛ぶし。

そんな少し不思議どころかめつちや不思議のMF世界に来ちゃつたんだぜ俺。そんな時に少し……色々と少しな自分の好みとは大きく違うけどさ、可愛くて素敵な俺のご主人ルイズ。ルイズと目をあわせたときに、なんかよくわかんない感じになつたんだよ。

そのあと直ぐにキスされて考 え全部飛んでつたけど。キスつてすつげえ柔らかいんだな。レモンとかいうけどあれはレモンじやない桃だ。ピーチだ。とにかく甘かつた。

あと左手がめつちや痛かつた。変な光る文字が浮かんだけど温泉入れなくなるだけだしまあいいや。ルイズからキスされただけで人生の温泉全ての回数を捧げる価値あるよ。まあ風呂は入るし温泉も入れるなら当然入るよそりや。

それはそれとして今までやればできるー、明日からしつかりやるー、流石にやらないとまずいからやるかーつて適当にやつてきてたんだけさ……もう絶対に何がなんでもやつてやるつて思つたんだよ。何をするのかなんて何も考えてなかつたんだけどとにかくルイズのために何かしたかつた。ルイズのことを何でも知りたかつた。これが一目惚れつてやつなんだろうな。

なんか広場での授業らしい?ものが終わつて歩いて学院に向かう途中とにかく声かけたさ。ここはどこなんだーとかあなたは誰ですかーとか。

何か名前は言つてたんだけどフルネームをあの一回じや覚えきれ

なかつた。他のやつが飛んでたし魔法の詠唱だつたんだろうなあれ。

とにかく諦めずに聞いたらルイズ・フランソワーズ・ル……ル・ルーシ……ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエール。よしなんとか思い出せた。ありがたーい長ーいお名前をいただけた。

忘れないように何回も復唱しないとフランソワーズ、フランソワーズ……

更に聞いたところヴァリエールという公爵家の中でもかなり偉い所の生まれらしい。公爵の位がなんなのか俺にはよくわからないけど会社でいう副社長ぐらい偉いと思つておこう。

必至の思いで聞き出してこれから話が弾むかなつてときには学院についたのはへこんだ。どれぐらいつてルイズが目の前にいなかつたら部屋のはじつこで丸くなりたかつたぐらいへこんだ。

ルイズと同室つて聞いてめっちゃ嬉しかつた。我が生涯に一片の悔いなし。

布団はなかつたから藁の上で寝ることになつたけど同室なだけでもう興奮して寝れないかと思つた。横になつたら案外すーっと気を失うみたいに寝てたけど。相当疲れてたらしい。……夜中こつそりルイズの匂いぐらい嗅ぎたかつた。次のチャンスを待とう。